

施策番号	2502		
施策名	健やかな生活が実感できる緑化の推進		
概要	きめ細かな緑のネットワークの構築に向けて、景観に配慮した街路樹や公園の整備を進めるとともに、市民、事業者と協働し、屋上緑化などを推進する。		
担当局・部室	建設局・水と緑環境部	共管局・部室	
上位政策	25 道と緑		
施策に関する 主な分野別計画等	京都市緑の基本計画、 京のみどり推進プラン（「京都市緑の基本計画」実施計画）		

施策の評価

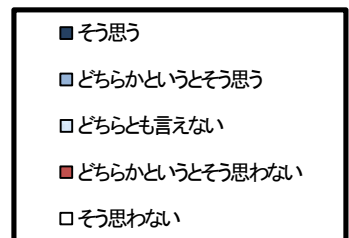
1 客観指標評価

指標名	年度	年度	23年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト
1 緑化助成面積(m ²)	-	-	3349	3623	640m ² 増	42.8%	c	1.00
2 まちなかの花壇の設置地区数(スポンサー花壇)(地区)	-	-	0	1	1	100.0%	a	0.50
3 街路樹の総本数(本)	-	-	906,420	913,560	10,000本増	71.4%	b	1.00
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価							b	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	23年度回答						有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない			
1 京都は緑が豊かである。	154	229	106	38	17	544	a	
	28.3%	42.1%	19.5%	7.0%	3.1%			
2 -							-	
3 -							-	
4 -							-	
5 -							-	
市民生活実感調査総合評価							a	



3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					年度	-
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	b	<input type="checkbox"/> 市民の実感	a		
(重み付けの理由) 緑に対する関心や感じ方には個人差があるため、客観的数値で判断できる客観指標評価を重視する。						年度	-
(原因分析) ・経済状況の低迷等により個人や企業による緑化に対する支出が減少しており、緑化助成の申請件数が伸び悩んでいるため、客観指標総合評価はb評価となった。 ・京都三山や借景など目に見える緑に対する市民の満足度(充足度)の高さが、市民生活実感評価のa評価につながった。						年度	-

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		23年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		22年度 決算額	23年度 予算額		
1	緑の基本計画に基づく緑化推進事業	44,565	86,301	普通	建設局
2	緑化フェア参加負担金	5,439	5,439	かなり良い	建設局
3	大宮交通公園	19,365	18,500	普通	建設局
4	梅小路公園	77,198	125,538	良い	建設局
5	大都市公園機能実態調査	4,813	4,395	-	建設局
6	街区公園の整備	1,239,112	690,962	-	建設局
7	梅小路公園の再整備	65,670	88,909	-	建設局
8	淀城跡公園整備	5,678	3,226	-	建設局
9	大見公園整備	1,289	2,816	-	建設局
10	桂川緑地整備(西大橋右岸地区)	961	-	-	建設局
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・緑の基本計画に基づき、緑化助成制度については、申請件数の増に向け、制度の更なる周知のみでなく、より利用しやすい制度への見直しを検討する必要がある。また、まちなか花壇については、平成23年度に花壇の設置方法等を検討・確立し、平成24年度以降の本格実施を目指す。
・街路樹に覆われた「道路の森づくり」を目指し、低木の植栽のみの中央分離帯に新たに高木を植栽することにより、都市の更なる緑化に取り組む。

施策名	2502	健やかな生活が実感できる緑化の推進
-----	------	-------------------

指標名	緑化助成面積 (m ²)
-----	--------------------------

担当課	緑政課	連絡先	2 2 2 - 3 5 8 9
-----	-----	-----	-----------------

1 指標の説明

地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和、加えて、良好な景観の形成などを目的に、民有地の屋上緑化、壁面緑化及び地上緑化の一定の条件を満たした市民や事業者に対し助成したことにより、新たに増えた緑化面積

2 指標の意味

緑のネットワークの形成に向けて、市民等との協働による民有地の緑化の推進状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	21年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	3,349	3,623	274m ² 増	640m ² 増	中長期目標達成のために当年度達成すべき数値	42.8%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		10,000	32年度		11年度～21年度までに行った既助成面積(3,349m ²)を約3倍(10,000m ²)にする	

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a : 80%以上
b : 60%以上～80%未満
c : 40%以上～60%未満
d : 20%以上～40%未満
e : 20%未満

6 基準説明

市民の緑化に対する投資は、気候や経済状況等に左右されやすいため、当該指標については、20%刻みで5段階評価の基準とした。

7 評価結果

		23
-	-	C

指標名	まちなかの花壇の設置地区数 (スポンサー花壇) (地区)
-----	------------------------------

担当課	緑政課	連絡先	2 2 2 - 3 5 8 9
-----	-----	-----	-----------------

1 指標の説明

市民・事業者との協働による緑豊かなまちづくりの一環として、企業・団体・市民等からの協賛・協力により歩いて楽しい緑と花いっぱいのもちづくりを推進していく花壇設置地区数

2 指標の意味

緑のネットワークの形成に向けて、市民等との協働によるまちなかの緑化の推進状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値		1		1	目標達成のために当年度達成すべき数値	100.0%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	10	32年度			目標(平成32年度に10地区)達成に向け、設置方法等を確立しモデル地区を設けて実施する。	平成23年度については、花壇の設置方法等を検討、確立する年とし、平成24年度評価は行わないものとする。

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a : 80%以上
b : 60%以上～80%未満
c : 40%以上～60%未満
d : 20%以上～40%未満
e : 20%未満

6 基準説明

当該指標については、花壇設置までのプロセスを数値化し、その合計値で5段階で評価することとする。
・候補地選定 0.2
・設置地区確定 0.3
・スポンサー、サポーター確保 0.4
・工事完了 0.1
例) 候補地を選定し、1箇所の設置地区確定
→ 0.2+0.3=0.5地区

7 評価結果

		23
-	-	a

施策名	2502	健やかな生活が実感できる緑化の推進									
指標名	街路樹の総本数（本）										
担当課	緑政課	連絡先	2 2 2 - 3 5 8 9								
1 指標の説明											
道路管理者（京都市）が設置・管理する道路区域内の並木の総本数											
2 指標の意味			3 算出方法・出典等								
緑のネットワークの形成に向けて、道路の緑化の推進状況を示す指標			出典：事業担当課調べ								
4 数値											
	前回数値 21年度	最新数値 22年度	推移	目標値							
				数値	根拠						
数値	906,420	913,560	7,140本増	10,000本増	中長期目標達成のために当年度達成すべき数値						
	達成度	71.4%									
	全国順位	中長期目標									
		数値	目標年次	達成度	根拠						
数値		100,000本増	32年度		平成21年度から1割増加させる						
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果							
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		当該指標については道路整備状況や、交通管理者からの制約等に影響を受けやすいため、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>b</td> </tr> </table>				23	-	-	b
		23									
-	-	b									